

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584	
法人名	社会福祉法人登米市社会福祉協議会	
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ	
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47番地3	
自己評価作成日	平成28年 9月26日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	平成28年10月17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事(夏祭り、長寿を祝う会等)を通して家族、地域の方々や同じ法人内の特養の入所者の方々が気軽に来所して頂ける機会を作るだけでなく、同じ敷地内のデイサービスや特養の催しがある時にはこちらからも参加して交流の場を広げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

登米市北西部、稲刈りの終わった田園を渡り鳥が飛び交う石越町の、豊かな自然環境の中にホームがある。登米市社会福祉協議会が運営する特養、デイサービスに隣接し、相互に連携・協力があり、入居者同士の交流も多い。近隣には消防署、交番、かかりつけ医等があり、入居者・家族の安心に繋がっている。「家族介護支援レスパイト事業」等への積極的な取り組みで、行政との関係は良好である。運営推進会議での活発な意見交換、地域行事への参加、定期的なボランティアの来訪等、地域との交流が盛んである。職員は、毎日の生活の中に入居者の「笑顔」が溢れるよう、その人らしい生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームほほえみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で検討を行い、前年度と同じ理念で実践に繋げ「笑顔」が毎日の生活のなかでいつでもあふれているように努力しています。	理念を4月の職員会議で振り返り、検討し、前年度の理念を踏襲し、継続としている。ホールに貼り、毎日確認し、入居者の不安を和らげ、笑顔で、安心して生活出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHの行事に地域の方々もお呼びして参加して頂いたり、GHに入所前に住んでいた地域の敬老会に参加されたりと交流を行っております。	町内の石越祭り、敬老会等に参加し、地域の方を夏祭り、芋煮会等に招待している。小学生が植えたプランターの花をおき、ボランティアの歌や踊りを楽しみ、傾聴ボランティアとお茶を飲みながらおしゃべりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設けて相談を受け付けております。また、地域の方々の依頼を受けて「認知症」についての出前講座も行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、福祉事務所や包括支援センター、地域の代表の方々や入居者の家族や入居者の方にも参加して頂き有意義な意見交換を行っております。	目標達成計画に掲げたヒヤリハットの項目を設けた。包括支援センターから介護情報等を得ている。岩手水害に関連して、登米市のホームページに防災情報が出ているとの情報があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回行われている、運営推進会議の場を利用して相談を行ったり、市の委託事業「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れも行き、良好な関係を築いております。	市とは相談しやすい環境が出来ている。介護認定を受けてない方の緊急の短期宿泊を受け入れた。毎感染症について市の研修に参加し、職員全員に伝達教育をしている。出前講座で、認知症状について講話をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の施錠は夜間のみとし、昼間は全ての窓やドアを開錠しています。ペット柵等のいかなる身体拘束も行っておりません。	職員は一人ひとりの外出傾向を把握し、目配りしている。隣接の特養やデイサービスと連携し、お互いに見守っているが、地域の方から入居者がいると連絡があった。夜間帯の安全面に配慮して、補助カギを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や講習会に参加したり、ミーティング時に自分たちのケアの見直しを行い、常に虐待が見過ごされる事の無いように注意を払っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される入居者の方はおりませんが、研修等で学んだ知識をミーティング時に勉強しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者で対応しており、何度か自宅に足を運び入居者や家族に対して、十分な説明を行い理解、納得をして頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表の方も参加して頂いており、そこで出された意見を運営に反映させております。また、家族がGHに来所された折には情報交換を行い、ご意見、ご要望を伺っております。	「ほほえみだより」を毎月1回配布している。面会時や運営推進会議等で直接家族から意見・要望を聞いている。日本酒を好む方が晩酌をし、おやつを職員が預かり、少しずつ分けて食べている方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているケアカンファやミーティングで意見を出し合い、話し合いを行っている。自分達では解決できない事案については直ぐに本部に相談し解決を図っている。	定期会議の他、入居者の状況によりその都度ミーティングをしている。議案にあったすべての部屋のフローリングを完了した。ケアマネジャー、介護福祉士等の資格取得希望者へ資金の貸付の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々の状況の把握に努め、働きやすい職場環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会の機会には声がけを行い、参加を勧めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しており、他の入所施設との交流や情報交換の機会が増え、自分たちのサービスの質の向上に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、本人に納得していただける様に会話の機会を設けたり、入所後には気軽に話しやすい環境づくりを行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、家族の要望を聞き、入居後もGHに来所された時には情報交換を行いながら、どんな些細な事でも話せる雰囲気づくりを行い、信頼関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの段階で家族の要望や出来る事、自分たちの出来る事、出来ない事を話し合い、本人にとって一番良いケアを行う為に他のサービスや社協内の他の他の施設との協力体制を取ったケアを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様も職員も同じ家族の一員として、皆さんに役割を持って頂き、出来る範囲でのお手伝いをお願いしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、面会時には家族でゆっくり過ごして頂いております。また、毎月「ほほえみだより」を家族にお送りして入居者様の近況をお知らせし、家族と入居者様の絆を大切にし共に支える関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域の行事に出かけたり、GHの行事にも地域の方々をお呼びして交流が途切れない様に支援しております。	正月や盆に自宅に帰る方、毎月娘と外出し食事する方、美容院でおしゃれする方等がいる。女学校の同級生が訪ねて来ておしゃべりする方、特養に来る出店でパンやお菓子をかう方等の交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々一人一人の趣味や興味のある事を把握して、毎日の生活のなかで入居者の方々の橋渡しに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了するのは、入院か他の施設への入所が多いので、社協の施設入所や入院時には様子を見に伺ったりしています。退所時に家族にはいつでも相談して下さいと話させて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の希望や要望は、散歩やお茶のみを行いながら一対一で伺うようにしております。この時に話された希望や要望は直ぐに職員で話し合い検討します。月に一度は傾聴ボランティアの方にも来て頂いております。	普段何も言わない方が、1対1になると、ぼそっと「お婆さんに会いたい」と耳にし、面会に来くよう伝えた。気の合う方同士の席を隣りにした。椅子から何回も立ち上がり落ち着かない方はトイレのサインである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族や本人に情報を収集します。また、入居者様が入居されてからは昔の話を良く聞く等情報を収集してこれまでの生活の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを把握し、毎日の記録を個人ごとのケースや日誌に記録し、職員全員で情報の共有を行い、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人や家族の意向を聞きケアカンファレンスで話し合いケアプランを作成している。3ヶ月ごとに見直しを行い、家族の同意を得ています。	家族は安心して、全面的に任せている。足に浮腫のある方の血液循環を良くするため、寝る前に足浴し、マッサージしている。朝食を麦ご飯に変えたら、下剤の必要がなくなった方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別にケース記録に記録することで、職員全員で情報を共有することができ、実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にあるデイサービスや特養等、他の施設と連携が取れており、お互いの交流を通してサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(敬老会等)に参加したり、地域の方にボランティアに来て頂き、歌や踊り等を楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族と話し合い、今まで通りのかかりつけ医を望まれる場合はかかりつけ医に通院し、GHの協力医に転移される方にはこちらで対応しております。また、家族対応で受診される際にはGHの情報を提供しております。	家族同行時は、状況等をメモや口頭で伝えている。歯科は毎月の往診で治療や口腔ケアをしている。日勤帯は、特養やデイサービスの看護師の支援がある。夜間緊急時は救急車を要請する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化で看護師の指示を仰ぎたい時には、隣接されている特養やデイサービスの看護師に相談し、直ぐに病院受診を行い入居者の方々が適切な看護を受けれる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者の方の情報を医療機関に提供し、入院後は出来る限り面会に行きその都度、病院関係者との情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間の医療連携が困難な事と看護師が居ないためにGHでの看取りは行っておりません。重度化した場合には家族と話し合い、特養、老健等の他の施設や医療機関への入院を支援しております。状態が重度化されてきている方については段階的に説明し合意を頂いております。	利用契約時に「入所・退所にあたって」を家族に説明し、同意を得ている重度化した場合は、病院に入院か特養等他の施設に入所となり看取りはしない。要介護3になったら特養に申し込むよう話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは職員全員が理解しており、訓練も定期的に行い、AEDの研修も行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は昼間だけでなく夜間も想定して行なっております。地域の方々の協力もお願いし、職員全員が避難方法を熟知しております。	夜間想定を含め、年2回実施している。消防署から、入居者を不安にさせないよう職員が付く、避難口は、退出後その都度閉める等の指導があった。訓練の記録を残し、運営推進会議への報告を実施されたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人一人に合った声かけを行い、排泄時や入浴時には特に誇りやプライバシーを損ねない様子を気をつけ対応しております。	呼びかけは、その人に合った苗字か名前に「さん」付けで呼んでいる。失禁に本人が気付かない時は、プライバシーや羞恥心に配慮し、他の入居者に気付かれないように声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々と日頃から信頼関係を築く努力をしており、入居者の方々が何でも話せる雰囲気や心がけており、思いや希望を話して頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一人一人の生活のリズムを把握し、その方のペースで穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日気持ちよく過ごして頂くために、自分で洋服が選べない方や洗顔が出来ない方にはお手伝いをして、季節に合った身だしなみをして頂く様に支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を参考に入居者の方々の希望にあったものや季節に合ったものを提供しております。誕生日には本人の希望を聞き お好きなメニューをお出ししております。	季節の食事は栗ご飯、おせち、あんこ餅等で、はつとが大好きである。誕生会には、本人の好きな刺身、ほや、こしあんに餅等である。普段小食の方が、芋煮会でおにぎりを3個食べた方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事の摂取量や水分量に気をつけ、十分な栄養や水分が摂取出来る様に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや入れ歯の洗浄を、自分で出来る方は見守りで、介助が必要な方は職員が手伝いをして対応しております。歯科医による口腔ケアも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、職員が誘導や声かけを行い自立に向けての支援を行っております。	その方の排泄の間隔により声かけしている。夜間にポータブルトイレを利用している方にも時間で誘導している。退院した方で、便が緩く、ただれた方に塗り薬を使用し、蒸しタオルで拭いて支援した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分を十分に摂って頂くことや、毎日乳製品を摂取して頂く等、一人一人に合わせた便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴日や時間を決めております。入浴が嫌いな方にも声かけや説得をして、納得いただいてから入浴をして頂いております。	入浴は週2～3回で、41～42度の高温を好んでいる。入浴拒否の方が家族の協力を得て入浴し、気持ち良さそうにしている。足浴をして体を温める方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は本人の意思に任せております。お昼寝も本人の生活習慣として定着している方のみ行っております。就寝時には居室の温度管理を行い気持ちよく休まれる支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬管理綴りで入居者の方々の薬について把握しており、服薬時には手渡し又は介助で飲み込むまでの見守りを行い、服薬を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に茶碗拭きや掃除等の役割を持って頂いたり、毎晩の晩酌や買い物等を楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそって、散歩やドライブ、買い物等に出かける機会を支援しております。また、家族との外出や外泊時には車椅子を貸し出す等の支援も行っております。	デイサービスの車を利用し、南方町の桜の回廊、米山のチューリップ、長沼の蓮の花見、平野神社の初詣等に出掛けている。天気の良い日は、ホームの前で日向ぼっこをしたり、敷地内を自由に散歩し、東屋でお茶を飲んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いをお預かりしており、外出時や買い物に出かけた時には、本人がお金を持って買い物が出る様に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかける事が出来ない方が多いので家族と話したいと言われた時には、職員が番号を押して受話器を手渡しております。また、毎年家族に年賀状を職員がお手伝いをし投かんしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃をこまめに行い、広い窓からは光や風を適度に取り入れ、エアコンでの温度調整もこまめに行っております。	居間や廊下は、天井が高く開放感があり、壁に刺し子や塗り絵、行事の写真等が飾られている。毎日の清掃は、入居者が職員を手伝い、モップ掛けをし、玄関を掃いている。毎年、門松を職員の親から頂き、特養やデイサービスに飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席を工夫し、気の合った方々で座って頂いております。又、廊下や玄関等に椅子を置き、気の合った方々で話をしたり、独りで過ごしたい時には独りで過ごせるように空間を工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具の持ち込みをお願いして、心地よく過ごせる空間の工夫を行っております。入居してからは、写真や自分で作成したカレンダーや塗り絵等を飾っております。	全室フローリングに改修したが、入居者によっては居心地のよい居室にしている。夫の写真を飾り、「お父さんありがとう。お休み」と言って手を合わせ、お土産を供える方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも設置されております。トイレの表示は大きな文字で表示しており、わかり易いように工夫しております。		